

2020年1月29日(水)、2019年度第2回学院モニター会議が開催された。

1. 学院モニター会議の目的

- ・学院全体について、各界や各立場、年齢層の方々からご自由な意見をいただき、地域社会の動きや学院への期待を察知し、今後の学院の在り方に活かす。
- ・外部からの視点や環境変化を肌で感じ、教職員が一体となってルーテルブランドの構築を目指す。

2. 学院モニター会議での主なご意見

部門	学外委員からのご意見	現状・改善に向けた本学院の取組
こども園	無償化となり、こども園の教育方針や園児数等に変化はあったか？	教育方針や園児数には変化はない。 就労する保護者が増え、幼稚園から保育園の形態に近づきつつある。
大学	小学校では殆ど電子黒板が導入されているようであるので、学生にはぜひPC技術（ICT）を身につけてほしい。また、小学校で英語教育が始まっていることから、大学の半分程度の授業は英語で講義・回答するなど英語で喋る時間を作ってほしい。それが九州ルーテル学院大学の「特色」となる。	元々ルーテルは「英語の九州女学院」と言われた伝統を受け継ぎ英語教育に力を入れてきた。 しかしながら年々、他大学も英語に力を入れるようになり「特色」と言えるほど目立たなくなっている。グローバルセンターをリニューアルし、さらに充実させ、中高とも連携して“英語のルーテル”を復活させたい。
中高	九州ルーテル学院は、今後10年、20年を生き残るための経営の視点から、保育園・幼稚園・中学・高校・大学のどこがキーポイントだと考えているか。	中学と思っている。中学校の定員が80名であり、その中の60名が高校に進学すれば高校での定員も確保しやすい。ただし、中学校では、心に悩みを抱えている生徒が多く、生徒一人ひとりに手が届く教育をする努力が求められている。
中高	中学に入学するであろう、小学生に対してはどのように広報しているか。	夏休みに小学校4年生以上の児童を募集し3日間、サマースクールを実施している。 サマースクールでは礼拝をはじめ、小学校ではできないような理科の実験、ハンドベル体験等を行い、最終日は学食でカレーライスを食べる。 最後に終了証を渡している。
こども園	こども園の給食は抜群に美味しい。	地域の人たちも食べに来られるようなことも計画出来たらいいと思っている。

大学	大学の英語教育環境について、“その建物に入ったら、1F～5Fまで全部英語しか話せない”ような環境を整えると学生たちは喋るようになるかもしれない	大学のキャリア・イングリッシュコースの学生に限って言えば相当な数、外国に留学や異文化体験学修に行っている。しかし、外国からの留学生がここ数年いない。留学生の受入体制を整備し、学生と留学生が日常的に交流できるキャンパスにしたい。
高校		高校ではオーストラリアのインマヌエル高校に3ヶ月の短期留学のプログラム等がある。応募者が多数あり、ミネソタに留学先の開拓をしようかと計画中である。 中高の教諭から1クラスの半数が外国人留学生、もう半分が日本人というクラスを作るというアイデアが出された。そうできるとすると特色が出せるかも知れない。
大学	今回の資料として大学の「卒業生アンケート」が配布されているが、この内容について大学はどういう見方をされているか。	教育成果や学修成果については、文科省から可視化するように求められており、このアンケートもその一つとして実施している。雇用先アンケートでは各学科専攻の教員からのコメントも掲載されているように、本学学生に対する評価として「優しい」が「積極性はあまりない」等とあり、今後の授業や指導に反映していきたい。
中高	以前、高校に女子サッカー部を作る計画があったが、どうなったのか。女子サッカー部が優勝できたらよいPRになる。	サッカー協会からは「ぜひ作ってくれ」と言われているが練習場の確保が難しい。つまり男子サッカー部の人数が多いので女子サッカー部の練習場の確保が難しいということである。
大学	大学のフィリア祭開催前に近隣に挨拶状を配られるが、学生たちだけが楽しんでいる印象がある。例えば外で、学生と地域の住民の方々と一緒に遊べるイベントがあればいいと思う。	フィリア祭では子どもたちのために迷路を作るなど学外から来られた方のための場所も用意しているが分かりにくいかも知れない。また、毎週火曜日には「ささえりあ」と連携して近隣の高齢の方々が大学へ来られ、活動もしている。フィリア祭等のイベント時にもそのような活動ができないかを学生自治会にも伝えておく。
中高		次年度は中高の学院祭は学外者にもオープンにする予定であるので是非観ていただきたい。